

(習志野市)財務状況のご報告 ＜平成25年度＞

平成27年3月28日

公認会計士・税理士 中神 邦彰

新地方公会計制度(財務4表作成)の推移

1. 夕張市の破綻(平成18年6月以前)



2. 財務4表の作成・公表(平成20年度～)

・貸借対照表(BS)……………固定資産台帳の作成

・行政コスト計算書(PL)

・純資産変動計算書(NW)

・資金収支計算書(CF)



資産更新問題の重要な鍵



3. アカウンタビリティ(説明責任)の履行…**現行の官庁会計決算書**



は民間では理解し難い

4. 有効活用の実施

①住民説明会 ②BS探検隊 ③習志野家の家計簿チェック

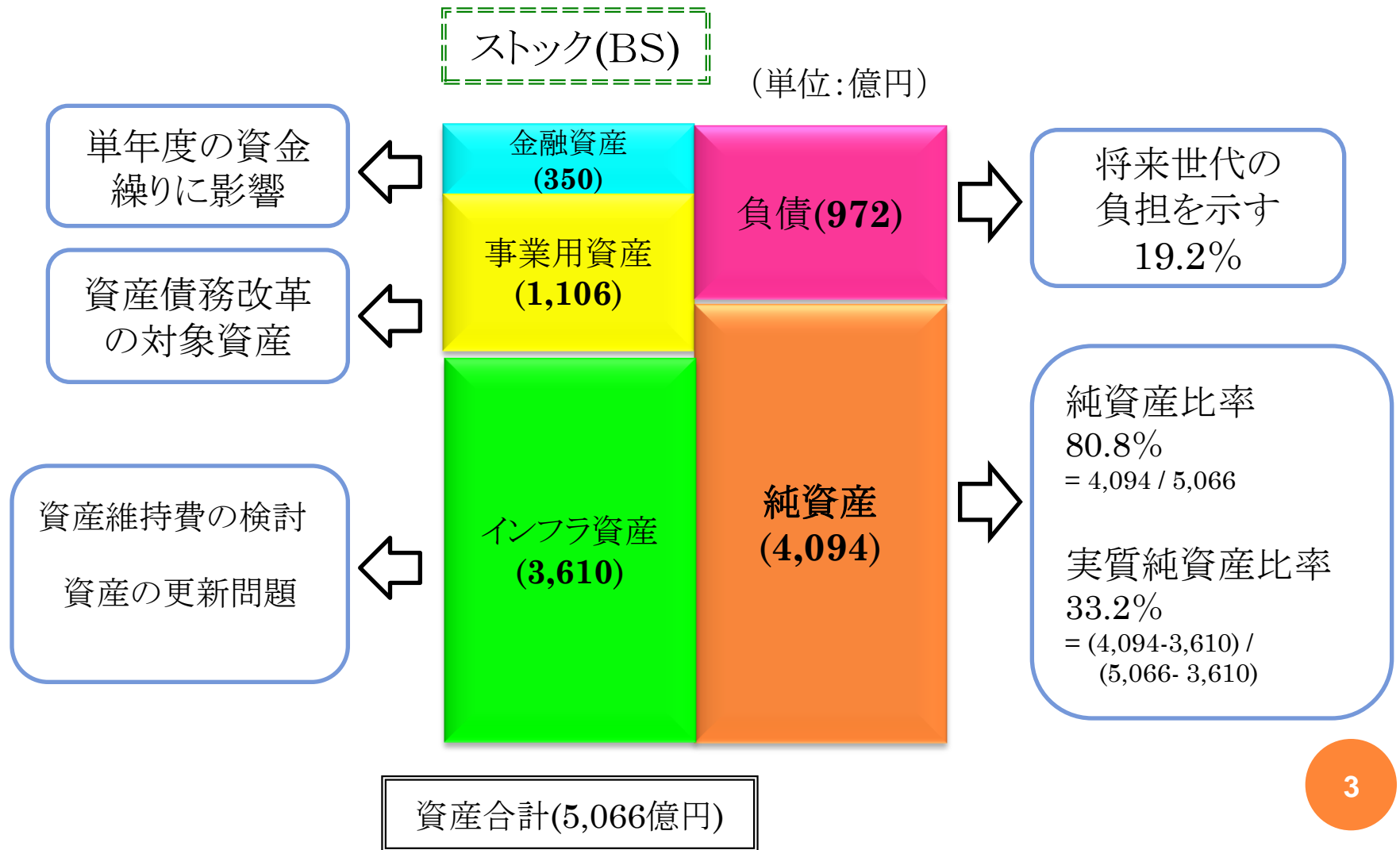
④アセットマネジメント 等

公表から6年が経った…習志野市の推移と特徴

習志野市(平成25年度)の概要①

ストック(BS)

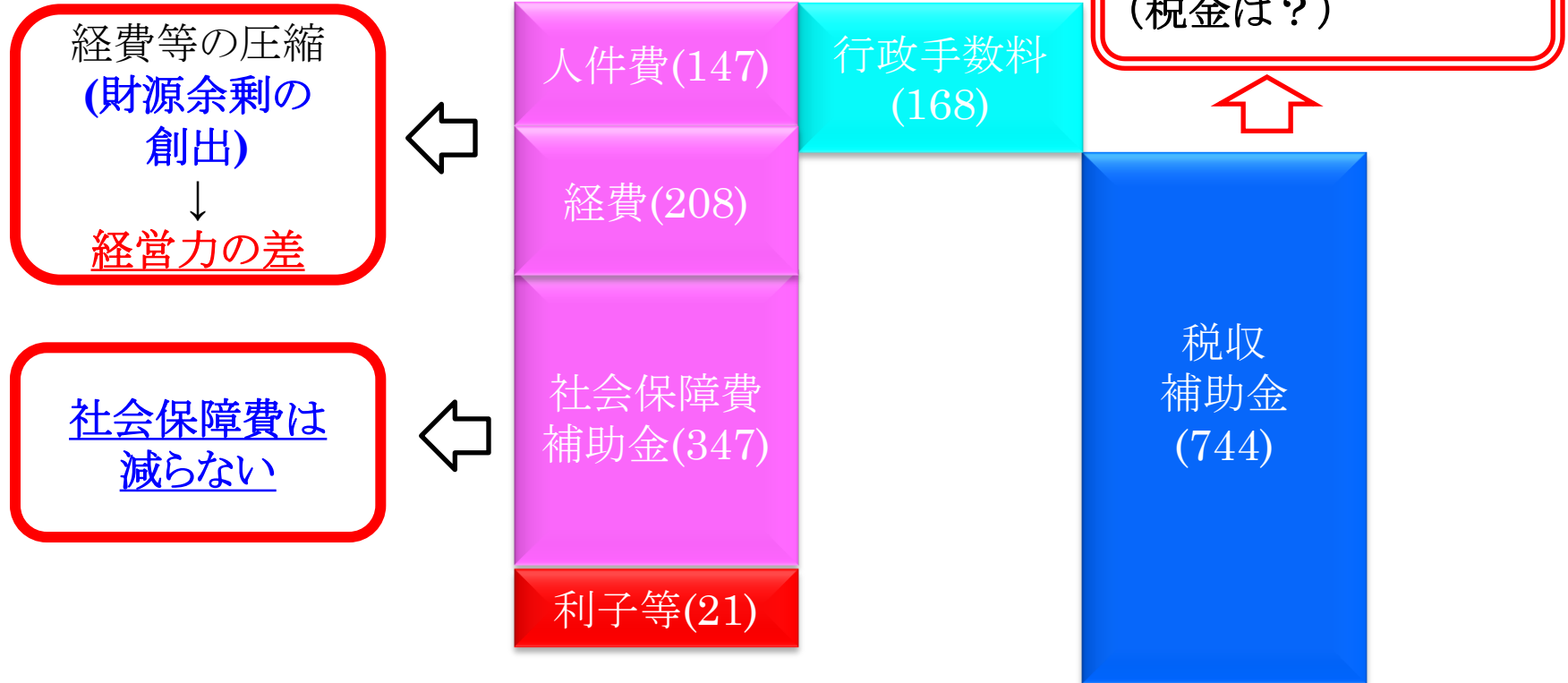
(単位:億円)



習志野市(平成25年度)の概要②

(単位:億円)

行政コスト計算書



費用合計(723億円)

(注)
公会計では税金は行政コスト計算書には計上されない

貸借対照表(6ヵ年比較)

(単位:百万円)

A 資産の部	H20①	H21	H22	H23	H24	H25②	②-①
1 公共資産	557,075	556,527	558,183	475,119	472,829	471,621	-85,454
a 事業用資産	111,468	110,859	111,164	108,111	109,887	110,184	-1,284
b インフラ資産	444,819	445,016	446,447	366,411	362,546	361,038	-83,781
c 売却可能資産	788	652	572	597	396	399	-389
2 投資等	5,769	5,199	5,596	6,282	7,954	13,534	7,765
a 投資及び出資金	185	192	375	557	584	792	607
b 基金等	5,584	5,007	5,221	5,725	7,370	12,742	7,158
3 流動資産	10,631	12,143	13,938	16,233	16,147	21,418	10,787
a 資金	6,924	8,247	10,044	12,422	12,360	17,470	10,546
b 未収金など	3,707	3,896	3,894	3,811	3,787	3,948	241
4 繰延資産	58	8	8	7	7	7	-51
資産合計	573,533	573,877	577,725	497,641	496,937	506,580	-66,953
B 負債の部	H20①	H21	H22	H23	H24	H25②	②-①
1 固定負債	85,521	82,228	81,843	81,909	80,186	79,152	-6,369
a 地方債	69,230	67,752	67,628	68,587	67,401	66,778	-2,452
b 退職手当引当金	13,059	12,124	11,890	11,522	11,508	11,085	-1,974
c 借入金等	3,232	2,352	2,325	1,800	1,277	1,289	-1,943
2 流動負債	12,199	11,724	11,270	10,562	10,344	18,054	5,855
a 翌年度償還予定地方債	6,478	6,457	6,635	6,161	6,438	6,396	-82
b 未払金等	5,721	5,267	4,635	4,401	3,906	11,658	5,937
負債合計	97,720	93,952	93,113	92,471	90,530	97,206	-514
C 純資産の部	H20①	H21	H22	H23	H24	H25②	②-①
純資産合計	475,813	479,925	484,612	405,170	406,407	409,374	-66,439
負債・純資産合計	573,533	573,877	577,725	497,641	496,937	506,580	-66,953

貸借対照表のポイント

(1) 基金・資金の増加

- ・固定資産の売却資金の保持
- ・資金の回収努力



今後の資金必要額
の確保

(2) 地方債・借入金の減少

- ・適正な残高水準というものは無いが、利息の減少は重要

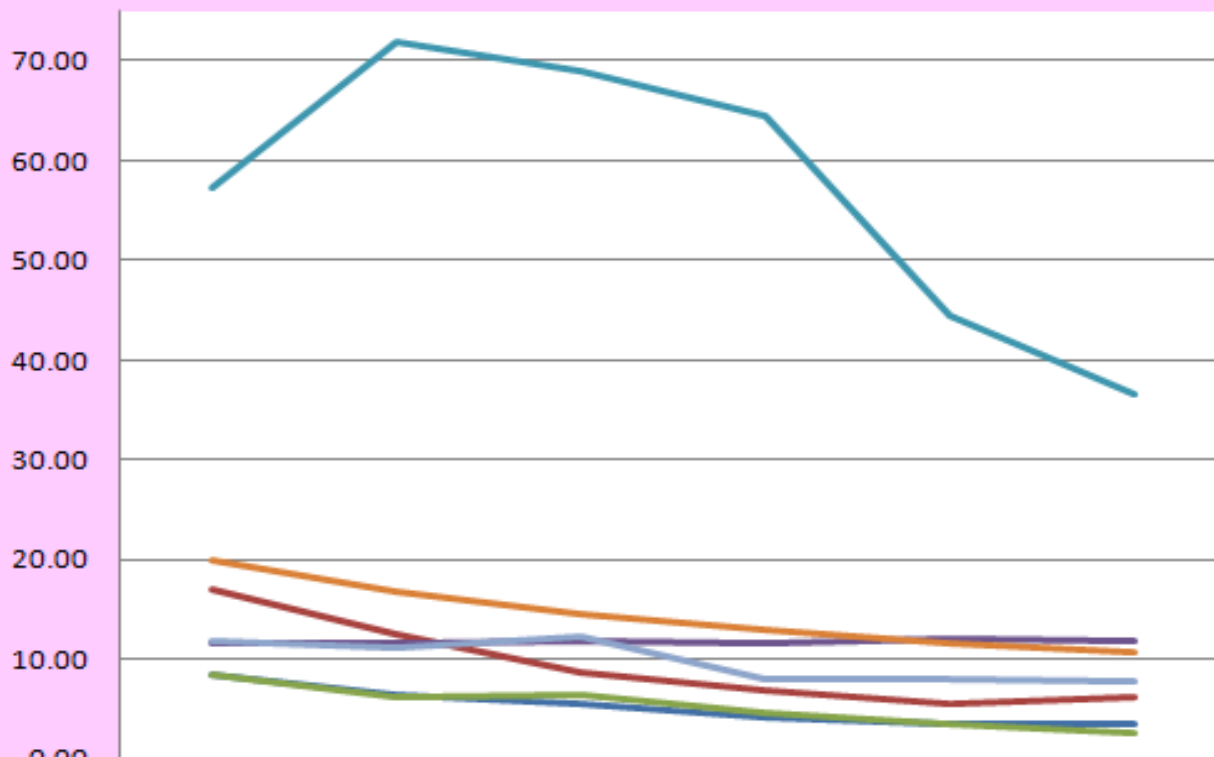
(3) 退職手当引当金の低減

(H20/4) 1,451人・43.5歳 → (H26/4) 1,432人・39.8歳

(4) その他

- ①インフラ資産の評価替えと資産計上ルールの変更(登記による計上)
→ 今後維持する水準の検討が必要
- ②前受金・・・施設売却に伴う一時的な前受け処理

税収等の貸倒率(%)の推移



	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
個人市民税	8.37	6.47	5.53	4.22	3.51	3.57
法人市民税	17.02	12.50	8.77	7.00	5.55	6.12
固定資産税	8.38	6.21	6.54	4.62	3.63	2.64
軽自動車税	11.57	11.65	11.83	11.72	12.06	11.85
市営住宅使用料	57.31	71.88	69.08	64.39	44.42	36.62
国民健康保険料	19.99	16.74	14.61	13.06	11.73	10.78
下水道使用料	11.87	11.27	12.39	7.91	8.03	7.69

行政コスト計算書(6ヵ年比較)

(単位:百万円)

A 総行政コスト		H20	H21	H22	H23	H24	H25
a	人にかかるコスト	15,076	14,666	14,997	14,789	14,804	14,659
	①人件費	13,194	13,006	13,058	13,208	13,148	13,164
	②退職給付費用	1,091	1,019	1,320	985	1,083	900
	③賞与引当金繰入	791	641	619	596	573	595
b	物にかかるコスト	18,567	17,547	17,963	21,096	20,349	20,849
	①物件費・経費	16,207	15,337	15,571	18,912	18,199	18,737
	②減価償却費	1,901	1,920	2,154	2,023	2,007	1,936
	③貸倒引当金繰入	459	290	238	161	143	176
c	移転支的コスト	26,316	30,134	31,917	33,600	33,056	34,719
	①社会保障関係費等	5,701	5,366	7,774	8,534	8,462	9,069
	②補助金等	20,508	24,705	23,936	24,960	24,516	25,503
	③補償費・公債費等	107	63	207	106	78	147
d	その他のコスト	2,442	2,269	2,077	2,150	2,077	2,080
	①支払利息	1,980	1,914	1,709	1,757	1,541	1,368
	③その他の業務関連費等	462	355	368	393	536	712
総行政コスト合計		62,401	64,616	66,954	71,635	70,286	72,307
B 経常収益		H20	H21	H22	H23	H24	H25
a	業務収益	14,408	13,514	13,722	13,932	14,899	15,048
b	業務関連収益	2,393	1,911	1,833	1,879	1,601	1,724
経常収益合計		16,801	15,425	15,555	15,811	16,500	16,772
C 純行政コスト		H20	H21	H22	H23	H24	H25
純行政コスト		45,600	49,191	51,399	55,824	53,786	55,535

行政コスト計算書のポイント

(1) 人件費の推移

(H20/4) 1,451人・43.5歳 → (H26/4) 1,432人・39.8歳
(H19年度) 6,932千円/年 → (H25年度) 6,426千円/年
＜公営企業等会計を含む全会計決算・正規職員＞

(2) 支払利息の遡減

- ・公債等残高の減少
- ・高金利の公債の返済がすすむ

(3) 社会保障費・補助金等の遡増

- ・全国的な遡増傾向

(4) その他

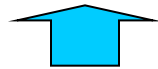
純資産変動計算書(6ヵ年比較)

(単位:百万円)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25
A 期首純資産残高	473,191	475,813	479,925	484,612	405,170	406,407
B 当期純資産変動額	2,622	4,112	4,687	-79,442	1,237	2,967
I 財源変動の部	2,233	4,919	3,399	2,546	1,723	-1,081
a 財源の使途	62,163	63,683	66,218	71,266	69,012	75,513
①純行政コストへの財源措置	45,600	49,191	51,399	55,824	53,786	55,535
②固定資産形成への財源措置	7,144	6,011	6,641	6,412	5,665	7,180
③長期金融資産形成への形成措置	1,917	2,130	1,347	2,278	2,937	6,230
④その他の財源措置	7,502	6,351	6,831	6,752	6,624	6,568
b 財源の調達	64,396	68,602	69,617	73,812	70,735	74,432
①税込	28,451	27,925	27,245	27,203	26,985	27,906
②社会保険料	5,936	6,237	6,230	6,236	6,532	6,672
③移転収入	19,519	23,230	25,534	30,185	27,220	28,888
④その他の財源の調達	10,490	11,210	10,608	10,188	9,998	10,966
II 資産形成充当財源変動の部	10,408	6,242	8,423	-75,565	5,825	9,092
a 資産等の減少	13	5,482	3,538	87,777	11,951	6,354
①固定資産の減少	0	2,774	1,754	2,331	10,560	3,548
②長期金融資産の減少	0	2,696	1,641	1,638	1,328	2,146
③評価・換算差額等の減少	13	12	143	83,808	63	660
b 資産等の増加	10,421	11,724	11,961	12,212	17,776	15,446
①固定資産の増加	8,469	9,564	7,633	6,470	6,057	7,792
②長期金融資産の増加	1,917	2,130	1,347	2,278	2,937	6,230
③評価・換算差額等の増加	35	30	2,981	3,464	8,782	1,424
III その他の純資産変動の部	-10,019	-7,049	-7,135	-6,423	-6,311	-5,044
a 開始時未分析残高	-10,019	-7,049	-7,105	-6,348	-6,300	-5,035
b その他純資産の変動	0	0	-30	-75	-11	-9
C 期末純資産残高	475,813	479,925	484,612	405,170	406,407	409,474

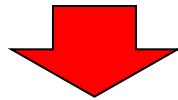
資産更新問題への対応のポイント

資産の更新問題 = 莫大な資金が必要となる



アセットマネジメント

1. 適正な資産規模の達成(施設の統廃合を含む)
→ 投資額およびメンテナンスのトータルコストを逡減させる
2. 適切な維持修繕による資産の長寿命化
→ 耐用年数の延長により実質的な投資コストの削減
3. 経営資源(ヒト・モノ・カネ)を優先的に集中して投資する



中長期投資計画の策定

調達できる資金を
考慮して資産の
更新問題に対応

地方自治体運営の今後のポイント

1. 行政側の課題

継続的見直し(行政評価等による事業費,人件費を含めた経費)

→ 自主財源の確保

2. 住民側の課題

過度な行政依存の回避 ⇔ 経費とのバランス

全体最適への理解・・・最終的な負担は住民が負う

3. 資産に対する適切な認識

インフラ資産はコストがかかる(取得・メンテナンス)ことを適切に認識するとともに、今後、資金をどのように調達するかは行政と住民にて考える必要がある